

2019 年度平和首長会議 青少年「平和と交流」支援事業

「HIROSHIMA and PEACE」

Fernanda Pestana Natario (サントス、ブラジル)

私が広島で学んだすべてに対し、言葉にできないほど感謝しています。確かに言えるのは、この経験が私をよりよい人間にし、他者への共感を深め、世界的な問題への意識を高めたということです。またどこに生まれても、どんな言語を話しても、私たちは皆、一つのコミュニティであり、ともによりよい世界を築くことができると気づきました！

広島市立大学では、学問的な知識の幅を広げました。推薦図書と講義は、原爆だけでなく第二次世界大戦について、また戦前と戦後の歴史的背景や世界が今日直面している核兵器の危険性の影響について、理解を深める基盤となる重要なものでした。

講義のなかで私が注目した事実の一つは、マンハッタン計画でした。これにより、1939年に原爆の製造が始められました。ナチスがウランを悪用し、兵器に使用しかねないという警戒を要する情報があり、そこでアメリカ政府は4州を巻き込んで20億ドル（現在の約230億ドル）の予算をかけ、13万人以上を雇用する巨大プロジェクトを始動させたのです。新型兵器の破壊力を計測するため、日本の6つの標的（広島、長崎、小倉、東京、横浜、新潟）が入念に選ばれました。

もう一つ興味深かった議論は、原子爆弾が実際に数百万人の命を救い、第二次世界大戦を終わらせたのかどうかです。当時は新しい兵器だったので、爆撃の瞬間をはるかに上回るその影響について誰も知らなかったことから、日本の降伏は原爆よりもソ連の満州侵攻によるところが大きかったことは文書で証明されています。このように、原爆はソ連に対するアメリカの軍事力の示威行為であり、そこには冷戦の始まりがありました。

「HIROSHIMA and PEACE」コースで忘れられない瞬間は、被爆者の証言、そして平和記念公園ツアーでした。資料館では、鉄の構造物にまで爆弾が及ぼした破壊を目の当たりにして衝撃を受けました。しかし、さらにひどいのは被害にあった多くの民間人の家や衣類、所持品が受けた被害を目にすることです。

原爆生存者の証言には、大きく心を揺さぶられずにいられません。悲劇は昼を夜に変え、黒い放射性の雨をもたらし、家族を見つけるのを一層困難にしました。生き残った人たちには放射線の後遺症への無知からくる偏見と苦悩に向き合いながら、街と生活を再建するという困難な仕事がありました。多くの生存者は最近になってようやく何が起こったかオープンに話せるようになったということで、お話を聞かせてくださったことに感謝します。最終的に、皆さんが教えてくださったのは許すことのパワーです。私たちは他者ではなく、戦争という状況を責めるべきなのだ。そしてこのメッセージを広めることが、恐怖の再発を防ぐ一つの方法です。

8月6日の式典、そして松井一實広島市長への表敬訪問でも、松井市長は若者が原爆の恐怖を忘れないことの重要性を強調しました。未来の世代には国際協力を求めていく義務があり、この点に関しては、私たちは自分たちの街でささやかなことから始めることができます。

現在、アメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国、インド、パキスタン、イスラエル、北朝鮮といった国が合わせて1万5,000発近い核兵器を保有しています。うち最初の5カ国は国連安全保障理事会に属しています。しかし、これは誤って核兵器を起爆させ、何千もの民間人を殺す可能性を排除するものではありません。したがって、不拡散だけでなく、今あ

る核兵器を安全に廃絶するためにも、私たちは努力していく必要があります。

より多くのブラジルの都市を平和首長会議に加盟させ、原爆啓発イベントを推進することはサントスのプロジェクトの一環です。加えて毎年、市内で式典を行い、原爆投下を忘れないようにしています。今年は10月4日から6日まで、第1回サントス移民フェスティバル (**Santos 1st Immigrant Festival**) を開催して多文化的で互いを尊重しあう環境を促進し、長崎市から寄贈された路面電車の運行開通式、さらにダンスや太鼓の公演などを行う予定です。2020年には、平和首長会議の「子どもたちによる“平和なまち” 絵画コンテスト」に参加します。

核兵器廃絶の具体的な計画としては、この問題に対するあらゆる市民の意識を高める必要があると思います。私たちはみんなで首長たちに責任をもって取り組むよう迫り、私たちのメッセージを大統領や首相に届けて条約に署名させるのです。私は自分が学んだことをできるかぎり多くの人に広め続けることを誓います。文化交流は、兵器という問題を超えて平和を広めるとても有効な手段です。文化の違いがあっても、国籍を問わず、私たちはみんなが平和に、幸せに、自然と調和して生きたいと願う人間であることを気づかせてくれます。その上で、私たちの願いを尊重してくれる為政者を選出しなければなりません！

悲劇を経験したにもかかわらず、広島は今日、平和的な雰囲気にあふれ、悲劇を克服するという教訓を世界に教えてくれる美しい都市です。日本の皆さんのおもてなしに感謝します。私たち全員がそのすばらしさに感嘆し、皆さんから学ばせていただけますように。人生を変える経験でした。平和首長会議には感謝してもしきれません！